

令和6年度 第1回 静岡市多文化共生協議会 議事録

- 日時 令和6年6月25日（木） 午後7時から8時30分まで
- 場所 静岡市役所 静岡庁舎3階
コミュニティ&ダイニングスペース「茶木魚」
- 出席者 静岡市多文化共生協議会委員 12名
赤田陽子、磐村文乃、エフィ グステイ ワフユニ、斉藤康博、
金笑杰、角替弘規、野田敏郎、花沢ウライヤ、肥田進、山下メリンダ
、ヤマモト ルシア エミコ、吉井博昭
(欠席者：照屋アンヘラ、中村直保)
望月哲也観光交流文化局長、岩田智穂観光交流文化局次長、事務局
- 傍聴者 1名（長沼滋雄市議会議員）
- 次第 開会
議事 「留学生が住みやすいまちづくりについて」
(来静時～学生期～就職期～定住期)
・転入に伴う手続（住民票、国民健康保険など）
・住宅の確保
・地域生活
・日本語教育（本人・家族など）
・多文化交流
・ボランティア活動
・アルバイト、就職活動支援（本人・企業）
・受入側（日本人住民）の意識啓発
その他
閉会

6 議事録

事務局（山梨）：

ただいまから、令和6年度第1回静岡市多文化共生協議会を開会します。この協議会は、静岡市多文化共生のまち推進条例に基づき、静岡市の多文化共生に係る基本的施策や重要事項について審議をしています。令和6年度は、4回の会議を開催する他、昨年度からの審議や御意見を取りまとめ、来年3月に市長へ提出する予定です。なお、会議は、記録のため録音させていただきますので御承知置きください。本日は、中村委員から欠席の御連絡をいただいております。また、照屋委員から到着が遅れる旨の御連絡をいただいております。

今回、3名の委員に変更がありましたのでお伝えします。静岡市校長会の小川委員の後任として赤田陽子様に、静岡商工会議所の松永委員の後任として斉藤康博様に、静岡市国際交流協会の中島委員の後任として吉井博昭様に委員を務めていただくこととなりました。それでは、赤田委員、斉藤委員、吉井委員の順に御挨拶をお願いします。

赤田委員：

私は仕事に就いてからずっと小学校に勤務してきました。とても狭い世界で仕事をしてきましたので、今日は色々な方々にお会いすることができてとても楽しみにしています。現任の学校も、その前も、さらにその前も外国にルーツがあるお子さんがいて、私も様々な立場から、そうしたお子さん達に関わってきました。これから色々な御意見を聞かせていただいて、勉強させていただければと思っています。

斉藤委員：

今年度からこの協議会の委員として、仲間に入れていただくことになりました。古庄駅からJR静岡駅の近くまで、自転車で国道を通って通勤していますが、ここ最近はずれ違う外国人の方が以前と比べて非常に増えていまして、静岡市には外国の方が本当に沢山いらっしゃるなど実感しています。

吉井委員：

4月からこの職に就いています。今年の3月まで静岡市の職員でした。採用されたのは昭和59年です。まもなく発行される静岡市国際交流協会の情報誌にも書きましたが、40年前に外国人登録の窓口で配属されたときに、当時の外国人登録法の指紋押捺制度が全国的な話題になりまして、そうした中で仕事をしました。それから、20年間様々な部署で仕事をし、静岡市の姉妹都市のオマハ市に1年間派遣されまして、そこで色々と研修させていただきました。それから更に20年経って、今回国際交流協会ということで、20年刻みの非常に長いスパンの中で、多文化共生、国際交流といいますが、そういった仕事に就かせていただいています。今までの経験を活かしてお役に立てればと思います。

事務局（山梨）：

今回は、令和6年度の第1回目となりますので、改めて全委員から一言ずつ御挨拶をお願いします。それでは、野田会長からお願いします。

野田会長：

国際ことば学院日本語学校という日本語学校で校長をしています。今回のテーマが留学生ということで、自分も直接関わっている分野ですが、静岡市の皆さんにとって住みやすいまちになるために、こういった取組をしたらいいかという点で、少しでもお役に立てればと思います。

花沢委員：

出身はモロッコです。夫が日本人で、結婚して静岡にきました。今子育て中で、娘は今年6歳です。来年、小学校に入学しますが、日本の教育、どうやって入るかとか、準備する物とか、色々と勉強したいと思います。

磐村委員：

私は市民委員です。留学生に日本語を教えています。市民活動としてやさしい日本語の普及活動をしています。留学生のことについて大変関心があります。

エフィ委員：

私はインドネシアの出身です。インドネシアに関することとか、通訳とか、そういうことをしています。20年前に静岡大学に留学しました。留学の経験を活かして、今回のテーマには関心を持っています。皆さんと意見交換しながら静岡を住みやすいまちにして行ければ嬉しいです。

金委員：

静岡県立大学の国際関係学部で、大学院の2年生です。留学生で、中国出身です。金と書いて「ジン」と読んでください。自分自身の留学生生活を振り返ったり、静岡のことについて展望する機会になるのではないかと楽しみに思っています。

角替委員：

静岡県立大学の食品栄養科学部に在籍しています。私の専門は教育学で、特に外国にルーツのある子どもたちの学習支援に関心があります。静岡自主夜間教室と清水自主夜間教室の活動にも参加しています。特に清水自主夜間教室には、技能実習生の方が日本語を習いたいということで、とても真面目に通っていて、インドネシアとか、ネパール、スリランカ、色々な国の方がいる。コロナが終わって徐々に増えている感じがしています。今回のテーマは大変興味深いです。

肥田委員：

角替委員と同じように、静岡の自主夜間教室で外国ルーツの人や不登校の子どもな

ど、社会参画に困難を抱えている人たちをサポートしています。今日は18人の生徒が会場のアイセル21に来ています。日中は焼津の中学校でカウンセリングの仕事をしています。そこでは30%が外国ルーツの子どもたちで、日本語が全く理解できない子、日本生まれの子もいます。それぞれ非常に大きな学習上の問題を抱えている。今日は皆さんと大いに意見交換をしたいと思います。

やましたい いん
山下委員：

静岡市国際交流協会の山下メリンダと申します。私の知り合いに困っている留学生が沢山おり、支援活動のお手伝いをしています。よろしくお願いします。

やまもと い いん
ヤマモト委員：

静岡大学教育学部初等学習開発学部専攻の教員です。私の研究分野は外国人児童生徒の教育です。外国人児童生徒というと、日本語教育を連想されるかも知れませんが、そういうことではなくて、教育あるいは社会学又は心理学という観点から傾向を考えるとということを中心に研究をしています。また、多文化共生という一つの理念が、教育を考える上でどのように繋がっていくのかをこの場を借りて一緒に勉強していくつもりでいます。

じむきょく やまなし
事務局（山梨）：

ありがとうございました。続きまして、次第の3に移ります。静岡市の多文化共生について、事務局から説明します。

じむきょく にった
事務局（新田）：

それではお手元の資料、多文化共生について（1）、（2）をもとに説明します。まず、静岡市の多文化共生について（1）、こちらは静岡市の令和6年4月末の外国人住民数を基に分析しています。まず、令和6年4月末現在の外国人住民数は1万3千303人です。この数は10年前と比較しますと1.7倍になっています。市人口に占める割合も10年前は約1.1%でしたが、今回2.0%へと増えました。グラフを見ていただきますと、令和3年度から4年度にかけまして一旦減っていますが、コロナ禍が去りまして、再び増加しているような状況です。（1）の右側を見ていただきますと、年代別、地区別、国籍別、資格別とありますが、年代別で見ると20～30代の方が一番多いです。地区別に見ますと、駿河区の方が一番多い。国籍別で見るとネパールの方の割合が増えています。さらに、在留資格別に見ると、留学の在留資格の方の割合が大体5%ぐらい増えていますが、逆に永住者の方が4%ぐらい減ってまして、結果的に留学の割合が18.5%と、昨年度よりも増えている状況です。人数にする

と、^{さくねん} 昨年の4月^{がつまつげんざい} 末現在と比べて^{くら} 914人の増加^{にんぞうか} となっています。つづきまして、2枚^{まいめ} 目を御覧^{ごらん} ください。静岡市多文化共生総合相談センター^{しずおかしたぶんかきょうせいそうごうそうだんせんたあ} に寄せられた令和5年度の相談^{れいわねんどそうだん} です。令和5年度は1,064件の相談^{けんそうだん} がありました。コロナ禍で相談^{こうなかそうだん} が減りまして、令和4年度^{ねんどくら} と比べると数^{かず} は減少^{げんしやう} しています。詳細な分析^{しやうさいぶんせき} は、御覧^{ごらん} のとおりとなります。

事務局（山梨）：

それでは議事^{ぎじ} に移ります。議事進行^{ぎじしんこう} は、静岡市多文化共生のまち推進条例^{しずおかしたぶんかきょうせいすいしんじやうれいだい} 第16条第3項^{だいさんかう} に基づき、野田会長^{ねが} をお願いします。

野田会長：

「留学生^{りやうがくせい} が住みやすいまちづくりについて」と次第^{しだい} にありますが、何か資料^{なにしりやう} を提示^{ていじ} していただけますか。

事務局（新田）：

お手元^{てもと} にお配り^{くば} していますA4判縦長の資料^{ばんたてながしりやう} で、令和6年度第1回^{れいわねんどだいかいしずおかしたぶんかきょうせいきやうぎかい} 静岡市多文化共生協議会議事^{ぎじ}、「留学生^{りやうがくせい} が住みやすいまちづくりについて」というタイトル^{たいとる} で線^{せん} が引いてあります。その下に四角囲みで資料^{しやくかく} の名前^{なまえ} が書いてあります。全部^{ぜんぶ} で7ページ^{ぺえじ} ありますけれども、こちらの説明^{せつめい} をさせていただきたいと思^{おも} います。1枚^{まい} ページ^{ぺえじ} をめくっていただきまして、最初に^{さいしょ}、市内^{しんない} の大学院・大学^{だいがくいん} ・短大^{だんだい} における国籍^{こくせき} 別留学生数^{べつりやうがくせिसう} で、2020年5月1日^{ねんがつにちげんざい} 現在のものになります。こちらは、国籍別^{こくせきべつ}、大学別^{だいがくべつ}に見^み たもので、まず国籍別^{こくせきべつ} では中国^{ちゆうごく} の方が最^{もっと} も多^{おほ} く、次にベトナム^{つぎべとなむ}、インドネシア^{いんどねしあ} となっています。それから学生数^{がくせいすう} に占める留学生^{りやうがくせい} の割合^{わりあい} というのが表^{おもて} の一番右側^{いちばんみぎがわ} にありますが、この割合^{わりあい} は静岡英和学院大学^{しずおかえいわがくいん} が26%と最^{もっと} も多^{おほ} い状^{じやうきやう} 況^{かう} です。留学生^{りやうがくせい} の数^{かず} 自体^{じたい} は、静岡大学^{しずおかだいがく} の方が多^{おほ} いですが、全学生^{ぜんがくせい} に占める割合^{わりあい} は静岡英和学院^{しずおかえいわがくいん} のほうが多^{おほ} いという結果^{けつか} になりました。つづきまして2番目の資料^{ばんめしりやう} ですが、市内^{しんない} の大学院^{だいがくいん}、大学^{だいがく}、短大^{たんだい} における留学生^{りやうがくせい} の卒業^{そつぎやう} の状^{じやうきやう} 況^{かう} です。これは2022年度の卒業生^{ねんどそつぎやうせい} ですが、卒業生^{そつぎやうせい} のうち8割弱^{わりじやく} が日本国内^{にほんこくない} にとどまっております。うち約3割^{やくわり} が県内^{けんない} に就職^{しゅうしよくしんがく} 進学^{しんがく} していますが、3割プラスアルファ^{わりぶらすあるふあ} が、県外^{けんがい} へ就職^{しゅうしよくしんがく} 進学^{しんがく} しています。つづきまして、3番^{ばん} の市内^{しんない} の教育機関別留学生数^{きやういくきかんべつりやうがくせिसう} の5年間^{ねんかん} の推移^{すい} ですが、これは5ページ^{ぺえじ} に別表1^{べつびやう} がありますので、そちらもご覧^{らん} いただきたいですが、要点^{ようてん} を申し上げますと、コロナ禍^{こうなか} で一^{いつ} 旦^{たん} 減^へ りましたが、コロナ^{ころな} が過ぎ^{すぎ} てまた増^ふ えているというグラフ^{ぐらふ} になります。4番目^{ばんめ} として、静岡市^{しずおか} における在留資格^{ざいりゅうしかく} が留学^{りやうがく} の方^{かた} の10年間^{ねんかん} の推移^{すい} ですが、これは最初^{さいしよ} に説明^{せつめい} した外国人住民^{がいこくじんじゅうみん} 全体の数^{かず} と同様に^{どうやう}、コロナ^{ころな} で一旦^{いつたん} 減^へ ったものの、またコロナ前^{ころなまえ} の水準^{すいじゆん} に戻^{もど} ってなお増^ふ えているというひょう^{ひやう} になります。3ページ目^{ぺえじめ} は、市内^{しんない} の教育機関別^{きやういくきかんべつ}・出身国別^{しゅっしんこくべつ} の留学生^{りやうがくせい} の5年間^{ねんかん} の推移^{すい} です。こちらの表^{ひやう} は別表3^{べつびやう} で6

ページにありますけれども、専修学校と日本語学校を加えたものになります。

ベトナム、ミャンマー、ネパールの方々は大学では少ないんですけども、専修学校・日本語学校では多いということが特徴として表れています。続きまして、3ページに戻っていただいて、6の卒業後の進路希望です。これは、2020年と2013年に調査をした内容ですが、市内の留学生の方に卒業後の進路希望について尋ねたところ、日本で就職したいという方が半数以上で最も多かったということです。これは、2020年も2013年も特に変わりませんでした。続いて3ページの(2)ですが、日本で就職したいと回答した方に対して、働きたい場所について質問したところ、静岡市内が4割弱で最も多く、その次に東京・名古屋などの大都市という順番でしたが、これを2013年と比較しますと、東京・名古屋・大阪などの大都市や、どこでも良いと答えた人が減りまして、静岡市内という方が増えている状況です。1ページめくっていただきまして、4ページですけども、先ほどの(1)の質問で日本で就職をしたいと回答した方に対して、将来の予定について質問したところ、何年か勤務をしたら母国に戻りたい、ずっと日本で働きたいという方、それぞれが同じぐらいの割合になりましたが、2013年と比較しますと、母国で起業したいと回答した方は減りまして、ずっと日本で働きたいという方が増加したという状況です。続いて4ページの7番、静岡市の暮らしやすさについては、2020年度は7割以上が暮らしやすいと回答しております。これも2013年と比べますと2013年は8割以上が暮らしやすいと回答しましたが、今回は若干減っています。これはコロナが関係したのではないかと考えられます。最後に有識者、関係者への聞き取り結果ですが、今年の4月に有識者に留学生の支援について聞き取り調査をしました。表を見ますと、来静時・静岡に来たとき、学生期・学生でいる間、就職活動期、そして定住期と4つの期に分けて、いただいた意見を整理したところ、就職活動期に対する意見が最も多かったという結果になります。留学生として静岡で生活を始めて、最終的に静岡で生活していきたいという希望があったとしても、就職活動が思い通りに行かないというところが、大きな壁になっているということではないかと考えられます。

の だ かいちょう 野田会長：

皆さんいかがでしょうか。資料を見まして、御意見やお考え、また不明な点など色々出てくるのではないかと思います。数字のデータとか色々あって、ちょっと今はまだ意見が出てこないという人がいるかもしれませんが、私が喋っている間にみなさん考えていただければと思います。私が個人的に思ったのは、最後に紹介のあった別表4の有識者、関係者との聞き取り調査で就職活動期について非常に多いというのは、実は私も今日ここに来る前に持っていた感想そのものですが、日本語学校の留学生に、どうしてうちの日本語学校に来たんですかと尋ねると、静岡が好き

で来ましたという人はいないです。静岡の情報が無いからです。たまたま紹介されて来たのが静岡だったとか、東京や大阪、大都市は避けたかったからという理由で静岡を選んだそうです。生活していくと、だんだん静岡は居心地がいい、ゆったりとして快適だなど、静岡の日本語学校、専門学校あるいは大学等に進んでいく。その後これが就職活動期になると、さあどうなるかという、文系の学生はおおむね希望どおりの進路を選択しているが、理系は卒業を機に県外に転出してしまう。文系なら静岡でという人もいかもしれませんが、私の知っている限りでは、結構静岡県外へ出ています。文系、理系を問わず。そういった実態があったりして、実はきのう、ちょうどフィリピンの中の卒業生と話をしたのですが、3年ほど前に卒業した学生で、現在は愛媛県今治市に住んでいて、その学生は静岡でうちに来て勉強していて、一旦フィリピンに帰って、かなり日本語ができていた人なので、フィリピンで就職を見つけて日本にまた仕事に来て、たまたま縁があったのがフィリピン関係の仕事で、今治市に本社がある会社さんだったものですから、今治の生活どうですかって聞いたら、「うん、焼津みたいですごく居心地がいいです」と言っていました。つまり、本当は静岡に行きたかった。東京とか大阪は避けたかった。静岡はすごく良いところだな、海があって、自分の住んでいた故郷にもなんか近くって、だけど静岡ではなく今治ですっていう実態があったりして、そういう学生は往々にして多いのかなと思いました。今の私の話は就職の話でしたけども、それぞれ1枚目の議事にあります、いろいろな観点がありますね。転入、住宅、地域生活、日本語教育、多文化交流、諸々あると思いますけど、そういった観点から、皆さんから御意見や疑問点を挙げていただければと思います。今回は皆さんから、均等に御意見をいただきたいと思っています。それでは、ヤマモト委員から順番にお願いします。

ヤマモト委員：

静岡も留学生を多く受け入れています。一部の学生は卒業後に帰国しますが、残りは恐らく日本で就職していると思われます。最後の別表4を見ていて、文系の学生は概ね希望どおりというのは私には意外でした。静大は理系の学生が就職しやすいのではないかなと思っていたところ、文系の学生はどういう仕事についているのだろうというのがひとつ気になったところです。

というのは、日本語ができる場合はまだいいのですが、理系の方々は英語とかで、日本語をまず使わないっていうこともあったりします。そうすると、理系の学生が就職した後のケアをどこまでできているのか。英語で採用された場合には、生活する上での言葉の支援が実際に行われているのかというところが少し気になるかなんです。文系の場合は、おそらく日本語が中心になると思いますが、それにしても、就職した後のケア、支援というようなところはあるのでしょうか。大学側の私達は関

わりようのない範囲です。就職先はどこそこという情報はわかりますが、どういう支援を受けながら仕事をされてるのかというのは情報がないので、その辺りがケアされているのか、住みやすい場所になっているのかを知りたいです。

の だ かいちょう
野田会長：

よくその話題でIT技術者の方々は割と日本語ができない状態で、インドなどの国々から直接日本に来て、ある程度片言の日本語を勉強してから来るケースが多いですが、生活に関してはまったく企業任せだと思います。なるほど、理系の学生の日本生活のケア、日本語教育を含めてですね。

やましたいいん
山下委員：

私は、留学生のために定期的なモニタリングが必要だと思います。留学生の健康状態や学業の進捗状態も、常に確認をするべきだと思います。そして、留学生の日常生活に関するアドバイスとか、緊急のときにもアドバイスを提供する必要がありますので、可能であれば、学校あるいは市でも、定期的なモニタリング、例えばミーティングを開催したり、あるいは可能であれば家庭訪問をしたり、留学生のためのネットワーキングのイベントも開催してほしいと思います。

の だ かいちょう
野田会長：

山下委員のモニタリングは聞き取り調査であるとか、実態調査であるとか、カウンセリングなんかも含まれるのでしょうか。この辺りについては、現役の大学院生である金委員にも実態を聞いてみたい気がします。

さいとういいん
齊藤委員：

今日の議事の一番目の住宅の確保ですが、このあいだ商工会議所の会議の中で、最近静岡市に限りませんが、空き家が問題になっていて、その空き家をうまく活用して留学生の皆さんの住宅の支援ができないか、という話題が出たことがありました。全国的に見ると、他の自治体でも空き家をシェアハウスみたいな形で活用している事例もあるようですから、改めて静岡市と相談させていただきたいと思っています。それから、この別表4の就職活動期のところに、かなり多くのコメントが載っていて、例えば「1、2年のうちから企業との接点を増やしたり、市内企業に対して好事例の紹介をしたりして、企業の採用意欲を高めてほしい」とか、「学生のうちから経営者と留学生が直接交流する機会がほしい」というコメントがありますが、商工会議所の会員企業さんは中小企業の小規模事業者ですが、やはり今一番多く聞かれる経営課題は人手不足でして、採用意欲を持ってる企業さんは実は非常に多い

ので、それがうまくこういう形で書いていただいているとおり、採用にうまく繋がられていないというのも実情だと思いますので、この辺をどうやって進めていくかという点を、会議所の活動の中で意識してやっていければと思っております。

野田会長：

就職の関係で私も相談したいことがあります。実をいうと、この前市役所の隣のハローワークプラザに赴いたんですけども、実際に担当の方から聞きますと、就職はあるといえませんが…というような感じで、まず一つ目の課題としては、やはり日本語がそれなりにできてないと採用というのは難しいですよと言われました。あと、実は企業さんって静岡にいっぱいあって、働き手が足りない、人手不足で困っているという会社さんはたくさんあるけれども、商工会のメンバーでないとハローワークなどの求人票には載らないケースがあると聞きました。商工会に入っていれば載るということは実際にあるのでしょうか。

齊藤委員：

それは聞いたことがないです。

野田会長：

担当の方からそのような趣旨の話聞いたのですが、商工会に入っていれば、色々な求人の情報が見られるということでしょうか。実際にはどのような方法で探すのが一番良いのでしょうか。ハローワークではなくて、今は皆アプリで探しますよ。それが一番いいですよと、ハローワークの方からアプリを使えと説明を受けました。就職がらみで、そういうやり取りがあったことを思い出しました。就職という非常に重要な点で、もう一つ言っておきますと、留学生の就職にはビザの問題がいつも付きまといます。特に文系の学生で、どういう仕事に就けるかといった場合、大学生の場合は割と自由に就職できるケースがありますが、例えば文系の大学を出て、料理人になりたくてもなれないです。あるいは、静岡県には美容専門学校がありますが、いくら美容師の勉強をしても、美容院に就職することはできません。そういった実態があります。ビザというハードルはなかなか大変で、その辺りは行政も絡んでくるのかなという気がします。続きまして肥田委員、いかがでしょうか。

肥田委員：

説明を聞いていて、日本人の大学生が東京へ行行って戻って来ないのと、良く似ていると思いました。それから、海外の留学生が静岡に来て、静岡に対して好印象を持つ

ているという、できれば住み続けたいというような気持ちを持っているというのは、非常にプラスだと思いました。ただやはりそれを逃していると言えるのではないかと思います。私の知り合いも留学生ではありませんが、ある職場にリクルートがあったときに連れて行きました。彼は私が判断するに、非常に好青年で、もう30歳を超えています。日本語があまり上手ではないということで、社長さんも良い印象を受けたんですが、結局採用には至りませんでした。それはなぜかという、その上の会長さんが、「えー、外国人か。日本語喋れるの、どうやってコミュニケーション取るの」とおっしゃって、それで社内にそういう波風を立てたくないということで、その人は結局就職できませんでした。在留の外国人の方に聞きますと、「No Japanese, No Job」というのは一つの決まり文句になっているようで、やはり仕事ができる程度の日本語能力は要求されるのですが、ここをクリアするのは非常に難しいことです。その辺りが私個人で考えるならば、職場で育ててくださいと思いますが、入口のところでカットして日本語ができないから駄目というのではなくて、せっかくそれ以外のところで非常にいい素質を持っているにもかかわらず、そこに気付かないで育てられないという意識が、各企業にはあるのではないかと思います。やはり言葉の壁というのは非常に大きい。それから、外国人留学生という、よくイベントをやるときに、留学生に来てもらいたいと言うと、「あー駄目、アルバイトでできない」というのが決まり文句になっています。母国から日本に来て、アルバイトをするのもいいですが、それがリクルートに結び付かないという、企業とのインターフェースが非常に悪いというところが問題ではないかと私自身も思います。ですから、留学生にとってみれば、一つは静岡のコミュニティに入るということですね。静岡はいいなと思っている学生さんが多いということで、そういう点ではうまく行っているのかも知れませんが、それプラス、企業とのインターフェースを学生の時期にアルバイトばかりしていないで、その辺をうまく繋げるようなシステムがあれば良いのではないかと思います。せっかく静岡に住みたい、静岡で仕事をしたいという意欲はあっても、具体的にその壁が非常に高いというのが一つ、施策としてもう1本欲しいところです。

の だ かいちょう **野田会長：**

この議事の一歩下にある、受け入れ側、日本人住民の意識啓発というのと大きく関わりがあるのではないかと思います。企業側も確かに日本語を媒介言語として仕事をするシチュエーションは確かに多いと思いますが、そればかりではないと思います。先ほどの日本語についても、職場で育てる意識であるとか、日本語はもちろんやり取りで重要な面がありますが、企業にとって一番必要なのは何かといえば、その仕事が達成できればいいのであって、その仕事を達成するための日本語はそんなに幅広くなくてもできる可能性があるのではないかと思います。仕事にもよると

は思いますが。そういった意識が変わることというのは重要かもしれません。それで思い出したのですが、日本語教育をやっている立場から言いますと、今年の4月から、色々と日本語学校を取り巻く状況が変わりまして、「日本語教育の参照枠」という新しい枠組みができて、日本語教育というのは、日本語を教えるだけではなくて、留学生は社会的な存在である、社会の中で行為をするものであるという考えに基づいて言語教育をしましょうというものが始まっています。つまり、もう日本人であれ、外国人留学生であれ、同じ日本語を使う仲間だという考え方です。みんながみんな母語話者のような日本語を目指す必要はないということです。複言語者と言ったり複文化者と言ったりするものも絡んでいるのですが、そういった私達従来から住んでいる人の変容というものも必要だと思いました。やはり就職というのが一つの鍵になるのかなという気がしました。アルバイトも含めて。吉井委員、いかがでしょうか。

吉井委員：

入り口の話で恐縮ですが、今回のテーマ「留学生が住みやすいまちづくりについて」ですが、「留学生が住みやすいまちづくりについて」の下のところ、来静時、学生期、就職期、定住期とライフステージごとに区分けがされています。最終的に定住期になるところは留学生という枠組みから外れていると思いますが、これから議論をするに当たって、最初に自分の頭の中に入れて置きたいのは、留学生が住みやすいまちづくりには、留学生として住みやすいまちのことを考えればいいのか、留学生が最終的に静岡を気に入ってくれて就職も見つかって、もしかするとパートナーが見つかって、長く住んでくれるということを理想としたような、留学生を入り口とした将来的に静岡に定住してくれるような人たちを、下支えというか、つくっていききたいというのはおこがましいですけど、そういうまちづくりを目指していきたいと考えればいいのか、ちょっとそこところが、自分が最初戸惑ったというか、留学生というキーワードでありながら定住期とか就職期ってなってくると、もうそれは最終的には、もしかするとここで一生を終える人も出てくるのかなと思いました。その辺りをどう理解して話をすれば良いですか。

野田会長：

いかがでしょうか、これは事務局から。

事務局（新田）：

主に考えていただきたいのは、静岡で留学生生活を送る中で、静岡のことを気に入っていただいて、卒業後の定住につながるという、そういう方が増えれば、静岡も

さまざまな文化的な背景の方が住むようになって、都市としての魅力が高まるのではないかと、そういう考え方をベースにいただければ、大変ありがたいと思います。ただ、データにもありますように、静岡に留学をする方が全員、静岡で就職をしているわけではありませんし、母国に帰国して日本に関係する仕事に就いている方もいると思います。そういう方が静岡は留学先としていいよと宣伝してくだされば、新たな方がまた静岡に来るということに繋がると思いますし、そういった視点からもご意見をいただければ、ありがたいと思います。

吉井委員：

わかりました。ありがとうございます。

野田会長：

そのうえで、もしご意見がありましたらどうぞ。

吉井委員：

先日、静岡市国際交流課主催の関係団体の集まりがあったときに、会議が終わった後でハローワークの方にお話を伺ったんですが、今度新たに静岡へ移転してくる日本語学校の方から事前に相談を受けていて、静岡に来るに当たって、心配なのはまず住むところ、それから大勢の人を連れて来ることになるのでアルバイト先については非常に不安があるということでした。もう一つは、地域の人たちに受け入れてもらえるのか、今学校がある場所は静岡と比べると人口が少ない地域で、静岡は大都市だから外国人に対する抵抗感が少ないのではないかというお話をされていたのですが、その方は、地域の人たちと日本語学校の生徒さんが、一緒に住んでうまく生活できるのかどうかということを心配されていて、それは恐らく現在の場所でそうした問題があつての話ではないかとおもいます。留学生が住みやすいまちづくりというのは、やはり議事の一番最後にある、受け入れ側の日本人の意識啓発、まさに多文化共生の意識をお互いに持つことが大事だと思いますし、幅広く色々と考えていく必要があると感じています。

野田会長：

「多文化共生協議会」という名称のとおり、共生社会を考える上で留学生の住みやすさであるとか、日本語教育をどうするかというのは、非常に関連のある事柄だと思います。続きまして角替委員、いかがでしょうか。

角替委員：

資料2ページの市内の大学院・大学・短大における国籍別留学生数のデータを見ていて、それと別表1を組み合わせしてみたのですが、そうして見ていくと短大、専修学校、日本語学校とかも含めてですが、2022年度のトータルで1,760人。私立の高等教育機関の留学生受入れが73.6%です。これを年度で追っていくと、大体私立で7割以上となっています。日本人は留学生と言うと全部一緒に見てしまいがちですが、日本語の習得レベルには様々なばらつきがあるように思います。そのような中で注意したいのは、留学生のみなさんがそれぞれの学校を卒業・修了してからどこへ行くのかということです。静岡の住みやすさと言ったときに、留学生の方々がどのように生活を立てていくのか、あるいは定住していくときに、どんな仕事にどんな形で就労するのかという点が気になります。結局それは、日本社会が留学生だった人たちを結果的に搾取している可能性はないのかということです。日本に留学して、何らかの学習をして、卒業して、母国ではない日本で正規で雇ってもらえた、安定した仕事を得られたということであれば、日本はいいところだよと言ってもらえるとと思いますが、いつまでたっても不安定な非正規雇用なのに、日本はいいと言ってもらえるでしょうか。留学の段階だけではなく、就労の面からも考える必要があると思います。

野田会長：

専門学校の場合は、就職に直結するということもあって、就職先と専門学校が連携しているケースが多くて、就職できなければ専門学校も特に採る意味がない、採るだけ採って就職口がなかったら専門学校のイメージが落ちると思います。一方、大学というところは、就職のための大学も一部にはあるのかもしれませんが、それを前提としてやっているわけではなく、アカデミックなものを主にしてやるのではないかと思います。ただそうは言っても就職先がなければ大学のイメージも悪くなるので、推測ではありますが、就職口があると踏んで、学生を採っているのではないかと思います。他の大学に聞くと、就職は大学の就職課が一生懸命動いていて、セミナーに連れて行ったりしてなんとか収めることがあると聞いたことがあるので、行き先があると思います。ただモンゴル人については、私達の日本語学校には今1人もいませんので、恐らく他のエリアから来た学生ではないかと思います。大学から静岡に来るケースも結構あるので、そういう場合にどうしたらよいかという点については確かに課題だと思います。ちなみに、留学生の場合、学部1年生から4年生、あるいは大学院に入るケースもあれば、静大とかは、夏休みだけ勉強するサマーコースで来る人たちも、広い意味では留学生になるのかもしれない。また、静大生に多いですが、1年だけとか2年だけとか、そういう方もいらっしゃると思います。そういう場合は恐らく転入というか、一時的に単位交換制度みたい

なケースもあると思います。色々な留学生がいるという点は、整理しておく必要があると思います。それでは現役留学生の金さん、いかがでしょうか。

金委員：

関係者への聞き取り結果や委員の皆さんの意見に全て共感し、私の経験や周りの友達も確かにそうだなと思いながら聞きました。私も就活について沢山の思いがあります。私の視点では、逆に学生期と直結しているのではないかとと思っています。学生期で学生生活を満喫しているという意見もありますが、それよりもっと前向きに目指すべきところは、留学生たちに早めに日本社会を知ってもらって、日本社会で活躍してもらいたいということです。企業経営者の意見にもありましたが、企業を見学してもらって、ここで就職できそう、活躍できそうというふうになれば、静岡の企業への就職につながるのではないのでしょうか。よくある事例で私も経験者ですが、仕事を1、2年で辞めてしまって他のところに行ってしまうとか、そういうのはミスマッチングだと思っていて、その解決方法の一つとして、せっかく静岡に来たのだから、静岡の企業を良く知ってから、東京で仕事があるか、静岡で自分に相応しい仕事があるかを判断して、最終的に静岡で就職してもらうのが一番良いと思っています。私も去年、新卒1年目で会社を辞めて今は大学院にいます。学生期に行政ができることとしては、例えば通訳の仕事とか、翻訳の仕事を学生に依頼したり地域の公民館をもっと活用して語学講座を開いたりしてはどうでしょうか。私も焼津市内の公民館で中国語の講師をやらせてもらっていて、既に5年が経ちました。わざわざ静岡市内から焼津へ通っている生徒さんもいます。静岡市内では中国語の講座がなかなか見つからないので、わざわざ焼津市まで来ているそうです。それなら静岡市でやれば良いじゃないかと思っています。中国文化に興味がある地域のひとと、中国文化に詳しい留学生が公民館で一緒に活動できたかと思っています。留学生でも大学1年生や専門学校生が、色々な市や地域の団体から活躍の機会を提供していただければ、就活のときに私は学生時代に静岡でこんなことをやりましたというアピールにも使えると思います。東京などの大都市へ出て行ってしまっても、5年間、10年間仕事してから第2のふるさとのような思いで静岡へ戻って、静岡で何かやろうという人も出てくるのではないかとと思っています。留学生の視野を広げて、留学生たちのポテンシャルに目を向けて、通訳や翻訳などの色々な機会を提供していただいて、留学生たちが自ら力を付けて最終的に静岡で活躍できるようになって欲しいと思います。

野田会長：

留学生のポテンシャルを見くびるなというところでしょうか。先ほど肥田委員から

留学生はアルバイトばかりするのではなく、もっと社会に溶け込めという意見がありましたが、確かに留学生でも特に日本語学校生の場合は、どうしてもコンビニやファストフード、日本語を全く使わない食品工場とか、そういうところでアルバイトをしていて、それがそのまま、専門学校生や大学生になっても同じような生活をしていたら、留学生のポテンシャルは活かされないことになりますね。その辺りについては、留学生がそこから抜け出す力が欲しいし、企業側でも「よし、ちょっと日本語が未熟だけど雇ってみようか」という会社が増えると、本当に金さんがおっしゃったことを実現できるかもしれないと思いました。赤田委員いかがでしょう。

赤田委員：

普段私が接しているのは6歳から12歳までの子どもなので、少し的外れな部分があるかも知れませんが、留学生が住みやすいまちづくりということで、自分がここに来るまでに考えたことは、安心や安全がキーワードではないかということです。違う国に行って自分が何かをつかみたいとか、アイデンティティを確立したいと思うような人というのは、健常時は色々なことができるのではないかと思いますので。例えば調子が悪くなったときに病院に行くにはどうしたらいいとか、そんなところがわかりやすくなっていると、留学して来た人たちが安心するのではないかということをしてこに来る前は考えていました。皆さんのお話を伺って知りたいと思ったことと、私の意見を少し述べさせていただくと、まず知りたいと思ったことは、この資料にあった静岡に来たときとか、日本で働きたいとか、静岡で働きたいと思った数はわかりますが、その理由を事務局で把握していたら教えてほしいですし、ここに留学の経験がある方たちがいらっしゃるのので、それを教えていただけると、住みよいまちづくりのヒントが少し見えてくるのではないかと感じました。意見としては、肥田委員がおっしゃった企業の入口のところでカットされてしまうのは自分もちょっと悲しいと思いますし、やはり受け入れ側の意識だろうと思います。異なる考え方や文化があるということが素敵なことだということが、日本にいる私達には少し欠けているのではないかと思います。言葉の問題なんて、今は翻訳アプリでも何でもありますので、そういうところが大事なのではなくて、もちろん日本語の壁というのは重々わかっているつもりではありますが、私が今接している子どもたちには多様な人と接することは尊いことだということを、10年後、20年後に大人になる今の子どもたちと一緒に、そんな雰囲気醸成していきたいなということをまず一つ思いました。また、外国にルーツがある方だけの問題ではなく、友人というか、あらゆる人にとって便利というのが、住みよいまちにつながって行くのではないかと思います。

の だ かいちょう
野田会長：

なぜ静岡を選んだのかという資料やデータは事務局にありますか。

じむきょく にった
事務局（新田）：

データとしては今回お示しをしたところまでで、その理由まで突っ込んだものはありません。今日は現役留学生の金さんがいらっしゃるので、御自身のことや周りから聞いたことを紹介していただけるとありがたいと思います。

じんいじん
金委員：

私はたまたま親戚が静岡にいたから、国立大学を目指して富士宮市の学校に通い、静岡大学に入って就職して1年で辞めて、今は県大の大学院に行っています。周りの留学生は中国人が多いですが、東京や大阪の日本語学校を卒業して、他の大学を目指して、ついでにというか、滑り止めに静岡の大学を選んで、結局静岡に来た人が何人かいました。わざわざ静岡を選んで来た人は少ないというのが実感です。でも東京から来た学生、卒業して静岡に定住した友達も何人かいます。

の だ かいちょう
野田会長：

エフィさん、なぜ静岡大学を選んだのかということですが、ご意見をお話しいただければと思います。

エフィ 委員：

私は文部科学省の奨学金を受けて20年前に静岡へ来ました。そのときに日本のどこへ行きたいかを選ばなければならなかったもので、まず、東京と名古屋を選びました。試験に合格した後、面接のときに担当者からそれはやめなさいと言われました。競争がすごいそうです。世界中の留学生が東京などの大都市を目指しますので、もう少し下のランクにしたらどうかと言われました。すぐに担当の先生に相談したうえで、先生からいくつか県名を見せていただいた中に静岡がありました。東京だと中々難しいので、競争が少ない静岡はどうですかと言われまして、それで静岡を選びました。あとは静岡だと、インドネシア人が多いと言われまして、そのときは日本語学校に通うインドネシア人が多かったんです。それから気候、温度が高いから冬もあまり困らないと言われまして、この三つで選ばせていただきました。結果的に静岡を選んでよかったです。

私は、周りから預かっている意見が多いです。まず、静大にはチューターや先輩といったシステムがあります。大学、市役所、銀行口座作りなどを全て留学生会館で案内してくれたので困ることはありませんでした。でもそういったシステムがない

大学だと、1人で行くしかなくて、それで困っているという意見がありました。全く日本語を学んでいないので、フェイスブックで静岡インドネシア人留学生会などのコミュニティを調べて、そこで例えば3か月後に静岡へ行きますので色々教えてくださいというパターンが多いです。インドネシア人の場合は、コミュニティが支援するケースが沢山あります。でも、この間困ったのが、短期で来た留学生がいて、住むところを探したのですが、どこにも断られてしまいました。1か月や最大でも3か月間の留学許可が大学から下りたのですが、住むところは自分で探してくださいと言われました。それで困って、モスクに住みますかと提案されましたが、その人は女性だったので、ちょっと無理でしょうということになって、結局その人は辞退しました。こちらの方でも色々調べましたが、1か月、3か月の短い期間だと保証人が見つからないことが多いです。大変費用が掛かるという理由で辞退したとのことです。本当に残念ですが、短期で来る留学生にどう対応するか、行政とか、あるいは大学も含めて考えていただけたら嬉しいです。それから、健康保険とか年金についてですが、つい昨日、ある留学生のところに年金関係の通知が送られてきて、エフィさんこれ何ですか、私が払わなければいけないですかと聞かれました。写真を送ってもらって見たら、これはただのお知らせですよ。年金などの制度を知らないまま静岡、あるいは日本に滞在して、わからないまま帰国してしまう人が多いです。休日の過ごし方がわからない学生が多いという意見がありましたが、私の知人にはお祈りをする場所がないので、なかなか出掛ける気にならないという人が多いです。本当は静岡市内の色々な場所を散歩したいのですが、お祈りする時間になると外出先でお祈り場所がなくて、帰らなければならないので、面倒だし忙しいので結局出掛けないそうです。また、就職活動で、言葉が原因で不採用になった話は私の周りでも聞いたことがあります。この間、9月にある会社ができるということで、後輩達は何人かで採用面接に行ったのですが、言葉が理由で全て断られてしまいました。日本語があまりできないから、申し訳ありませんと言われました。その人たちは大学院生です。でも、理系なので英語が中心で、教授が日本語は必要ありませんと言うそうです。ですが、私が思うに日常生活では大変困っています。病院や買い物は全て先輩や友達に頼っています。肥田委員の、会社など受け入れ側が日本語を教えるという意見はとても良いアイデアだと思いますし、大学でも日本語クラスの受講を義務化してもらいたいです。あとは、やはり言葉がわからないままだと不安だと思います。せっかく日本にいるのに、本当はみんな帰りたくないと思っています。日本で就職したいと言っています。ただ、日本語ができないから申し訳ありませんというのは、人材として本当にもったいないと思います。

の だ かいちょう
野田会長：

静岡を選んでくれてありがとうございます。磐村委員いかがでしょうか。

磐村委員：

留学生といっても、短期の交換留学だったり学位を取って進学や就職まで考えていたり色々だと思いますが、気になっていることが2つあります。留学生の地域参画が促されているかどうか、そういうシステムをつくる地域になっているかどうか、受け入れ側の意識醸成・体制整備は検討すべきことだと思っています。就職に関してこれだけ意見が上がってきていますが、こういうことは静岡だけではなくほかの地域でもあると思いました。大学にはキャリアセンターという部署があって、どうやって就職活動をしていくのか、キャリア形成をどのようにしていくのかということを支援しています。それを留学生にどれだけやれているか、それができるようなスタッフがいるのかという点ですが、行政や商工会などが横のつながりで、外国人人材のキャリア支援、キャリアアカウンセリングできる人材を置くだけでも、日本語力がないから採用しないなどの事例は減るのではないかと思います。すり合わせができるはずです。まずキャリアアカウンセラーを置いて個々のキャリアを大切にしていけば、自然と良い人材とまちづくりにつながっていくと思います。

もう一つ気になっているのが、今、メンタル不調を起こしている学生が目立つことです。授業以前に体調確認とメンタル不調にどう向き合うかということが一つの課題になっていて、そういうことが起きていないようであれば、ここは良い都市だろうと思います。相談体制という点でも、手厚く対応して欲しいと思っています。

野田会長：

キャリアアカウンセラー、良いアイデアだと思います。キャリア形成は本当に重要だと思いました。それでは最後に、花沢副会長からお願いします。

花沢副会長：

色々な意見が出て、まとめたいと思っても難しいですが、皆さんと同じことを考えています。就職活動に関する意見がありましたが、文部科学省に招聘された留学生は確かバイトは駄目ですね。大学では日本語を勉強していましたが、少しでもバイトをやった方が日本の生活に慣れるのではないかと個人的には思います。そのまま日本で働くことになっても、母国に帰っても、日本語を勉強すれば役に立つと思います。就職活動については、企業から断られるケースが多いという話は私も聞いています。私も以前ハローワークへ行ったときに、日本語ができないと紹介できませんということを言われて、個人的にやりたい仕事が無かったこともあります。

が、今はインターネットの求人サイトの方がバラエティーの幅が広いです。日本語をどれぐらい話せるとか、働きたい時間とかを自分で選ぶのですが、そういうアプリとかで、「外国人」と入力すると、「外国人OK」と自動的に出てくるので、調べていくと、ほとんどが飲食店で、工場はまだ少ないです。もし工場とかで働くことになったら、工場の方が英語でも何でも、簡単な職場で使える言葉を覚えれば、外国人の方も日本語が頭に入るので、外国人と日本人が互いに歩み寄ればいいのではないかと思います。人が足りないという話もありました。日本人があまりやりたくない仕事を仕方がないから外国人がやるという人もいれば、日本人が嫌だったらやっぱり私も嫌だと言う人もいます。それは分野によるかもしれないし、面接のときにどんな対応をされたのかに依るのかもしれないし、本当に難しいところです。私も最近始めたバイトがあって、今日初めて仕事で電話を受けました。電話に出たら19時に2名の予約をしたいということでした。大丈夫ですよと返事をして、その後聞いたことのない日本語を言われて、「申し訳ありません。私は初めて電話に出たのですが、それはどういう意味ですか。」と聞いたら、その方が怒ってしまい、とりあえず19時で大丈夫ですかって言われて。なぜ怒られなければならないのかと思い、聞き間違いがあったのではないかとあって、それだけでもう電話には出たくないと思って、難しいですね。本当に少しでも自信があるかないかが大きいのかも知れないですね。とりあえずこれぐらい日本語で仕事ができる、でも入ってみたらやっぱり難しい。日本だし、日本語も話せるし、話さないと仕事ができないから、結構プレッシャーをかけられる職場が多いと思います。職場の雰囲気だけではないと思いますが、一緒に働く人がお互い様の精神で、一緒に楽しく仕事できれば、そこをフォローできれば良いのではないかと思います。あとは留学生に限りませんが、日本語でずっと勉強して、バイトもして、結構疲れると思いますので、外国人同士の交流も必要だと感じました。静岡県内で働いている外国人のフェイスブックのページがあって、ほとんどが英語の講師向けですが、誰でも入れるので、イベントに参加していくと英語や他の言葉に興味がある日本人の方も結構いて、面白いイベントも開催しているので、私も何回か行って結構楽しかったです。ストレスを発散できるし、意見交換も日本人とも他の外国人とも何が大変なのかとか、結構面白いと思います。皆さんもそういう所へ行って、いろいろ他の外国人の意見とかを聞いても良いのではないかと思います。最後に、私は夫が静岡の人ですが、仕事を探すと、通訳や翻訳はモロッコでやっていて大変だったので、それはやりたくないから、テレビの関係もやっていたので、テレビの関係をやりたいのですが、静岡だとあんまり求人が出ていないので、もう調べるのをやめて東京へ行こうかなと思いました。子育て中で娘を連れて行こうと思いましたが、静岡は住み易いですね。東京より人が少ない。結構大きい街ですが人は少ないですね。あと静岡の人は優しいです。差別がありません。外国人だから

らというのがそんなにないですね。東京へ行くと電車から降りるだけでも結構ひどい
ですよ。だから東京に行くだけで疲れるので、それだったら静岡が大好きだし、静岡
で本当に色々できたらいいなと思って、今も静岡に居ますし、これからも静岡に居た
いです。

野田会長：

長時間に渡って、色々な意見が出ました。その中で自立したのは、やはり人と人との
関わりなのかなという気がしました。それでは事務局に戻します。

事務局（山梨）：

野田会長、花沢副会長、そして委員の皆様、本日はありがとうございました。
本日の協議会の内容は、会議録として委員の皆様にご確認いただいた後、静岡市
ウェブページで公表します。また、次回の協議会は9月19日木曜日の午後7時から
8時30分まで、場所は本日と同じ茶木魚で予定しています。最後に、閉会に当たりま
して、静岡市観光交流文化局長の望月から御挨拶申し上げます。

望月局長：

本当に活発な御意見、それぞれの立場から御意見をいただいて、ありがとうございました。
現場の声といいますか、生の声を聴けたということで、我々として今後につな
がる御意見と思っています。この会議は年に4回、第2回目を9月に開催ということ
ですが、これは事務局にも聞いてもらいたいことですが、来年度に繋げるために、も
う少しスピード感を持って進めていきたいところがありまして、今日いただいた意見
の中でも、施策に繋がるような御意見ですとか、これをやれば留学生にとって良さそ
うな意見がたくさんあったと思いますので、留学生にとって良い取り組みとなるよう
な事業を来年度以降に繋げられるように、次回の会議でも議論いただければと思っ
ています。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

事務局（山梨）：

以上をもちまして、令和6年度第1回多文化共生協議会を閉会いたします。

以上

議事録署名人

静岡市多文化共生協議会 会長 野田敏郎